

# 福島はあなた自身

## 災害と復興を見つめて

2018年  
2月9日  
発行

2017.3.18 東京大学本郷キャンパスでのシンポジウムより

編者 一ノ瀬正樹

東京大学大学院哲学研究室教授

早野 龍五

東京大学物理学名誉教授

中川 恵一

東京大学医学部放射線医学教室准教授  
放射線治療部門長

正直、ほっとしている。ついに、東日本大震災の真の教訓を後世に伝える本物の書が出版された。福島原発事故をめぐる、数多くの著作や番組が世に出たが、当時、渦中にいた私は、どれも大事な核心が抜け落ちていることに、忸怩たる思いを持ち続けてきた。兎に角、多くの人々に本書を読んでほしい。多くの尊い犠牲と筆者たちの無私で献身的な努力によって生まれた教訓集だ。災害だけでなく、人は、突然、重大な決断を迫られる、そんな時に、悔いのない決断をするために本書を座右においてほしい。住民避難を推奨した専門家、迫ったメディア、決めた政治家、空気に逆らえなかった人々…どこで、何を、間違えたのか？「リスク・トレードオフ」が考慮されなかったのは何故か？その実相が明らかに。 東京大学・慶應義塾大学教授 元文部科学副大臣(当時) 鈴木 寛

## 福島はあなた自身

### 災害と復興を見つめて

2017.3.18 東京大学本郷キャンパスでのシンポジウムより

編者

一ノ瀬正樹

東京大学大学院哲学研究室教授

早野 龍五

東京大学物理学名誉教授

中川 恵一

東京大学医学部放射線医学教室准教授  
放射線治療部門長

一ノ瀬正樹  
相川祐里奈  
桜井 勝延  
安東 量子  
早野 龍五  
中川 恵一  
後藤 あや  
高村 昇  
眞並 恭介



福島民報社

### 目次より

#### 導 入

福島問題は私たち自身の内在的問題である

一ノ瀬正樹

#### 第一部 あのとときの福島、そして避難弱者

あの時 福島原発付近の介護施設で何があったのか

相川祐里奈

避難を余儀なくされた介護施設

桜井 勝延

#### 第二部 福島に暮らす、そして健康問題

福島で暮らす・暮らせないということ

安東 量子

測って、伝えて、袋小路。—どこで掛け違ったのだらう—

早野 龍五

避難行動と健康(一)～放射線の人体影響～

中川 恵一

#### 第三部 福島の子ども、そして育児／甲状腺がん

震災後の母子保健：エビデンスをつくり、伝え、使う重なり

後藤 あや

クライシスコミュニケーション

～リスクコミュニケーションの経験から

高村 昇

避難行動と健康(二)

～福島での小児甲状腺がん～

中川 恵一

#### 第四部 被災動物、そして動物倫理

被災動物は何を語るか

～原発事故後の牛、犬、猫たち～

眞並 恭介

被災動物、そして動物倫理の暗闇

一ノ瀬正樹

B5判 192ページ カラー **定価 2,000円+税**

福島県内書店、福島民報社本社、郡山本社、支社、支局、  
福島民報販売店などでお求めになれます。

Amazonでも販売します。

お問い合わせ

〒960-8602 福島市太田町13-17  
福島民報社事業局出版部  
☎024(531)4182

「福島はあなた自身」執筆者紹介



後藤 あや(ごとう・あや)

群馬県出身。1995年山形大学医学部卒、ハーバード公衆衛生大学院修士課程修了、山形大学大学院博士課程修了。ハーバード公衆衛生大学院武見フェローを経て、福島県立医科大学総合科学教育センター教授。専門は母子保健、国際保健、疫学、ヘルスリテラシー。福島県「県民健康調査」妊産婦調査室副室長。



安東 量子(あんどう・りょうこ)

1976年広島県生まれ。福島県南相馬市出身の夫と結婚、現在いわき市に在住。震災後、放射線防護活動を住民主体で行う「福島のエーツ」を設立。いわき市末続地区の住民の方と共に活動を行ってきた。ICRP（国際放射線防護委員会）の協力で福島県内で継続的に開かれているダイアログセミナーの運営にも関わっている。  
http://ethos-fukushima.blogspot.jp



一ノ瀬 正樹(いちのせ・まさき)

1957年茨城県生まれ。父はいわき市出身、そのルーツは会津。東京大学大学院哲学研究室教授。オックスフォード大学Honorary Fellow。著書に『死の所有』（東京大学出版会）、『放射能問題に立ち向かう哲学』（筑摩選書）、論文に“Normativity, probability, and meta-vagueness” (Synthese (2017) 194:10) 等がある。

そうなのです、福島の問題に対して発する言葉や見方は、単に福島に関わるだけではないのです。それを発する、それを心に抱く「あなた自身」を形成していく要素でもあるのです。戦後最悪とも言える災害の東日本大震災、そして私たちが直面した大きな規模の原発事故、それは一地方である「福島」の問題ではありません。むしろ、福島問題は、放射線飛散量の物理的・生理的影響に関するデータや事実がほぼ出尽くしたいまでは、日本人全体の道徳的品性を問う問題へと変容しているとさえ言ってもよいでしょう。  
(まえがきより)



高村 昇(たかむら・のぼる)

1968年生まれ。長崎大学原爆後障害医療研究所・国際保健医療福祉学研究分野教授。専門分野は被ばく医療学、国際保健学、衛生学、内分泌学、内科。1993年、長崎大学医学部卒業。1997年、長崎大学大学院医学研究科卒業。1997年6月～2001年10月、長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設国際放射線保健部門助手1999年6月～2000年7月、世界保健機関本部(WHO)技術アドバイザー。2001年11月～2003年2月、長崎大学医学部講師。2003年3月～、長崎大学歯学部総合研究科准教授。2008年4月～現職。2010年1月～同年9月、WHOテクニカルオフィサー。2011年3月～、福島県放射線健康リスク管理アドバイザー。



早野 龍五(はやの・りゅうご)

1952年岐阜県生まれ。2017年まで東京大学大学院理学系研究科教授として、欧州原子核研究機構(CERN)で反物質研究の国際チームを率い、井上物理学賞、仁科記念賞、中日文化賞などを受賞。現在は東京大学名誉教授。2011年以降、福島第一原子力発電所事故に関して、自身のTwitterから現状分析と情報発信をおこなうとともに、福島に足を運び多数の論文も執筆。近著に糸井重里氏との共著「知ろうとすること。」がある。



三川 祐里奈(あいかわ・ゆりな)

1986年愛知県南知多町出身。2010年慶應義塾大学総合政策学部卒業。大手新聞社に勤務した後、国会に設置された東京電力福島原子力発電所事故調査委員会(国会事故調)に事務局調査員として2012年3月に参加。解散後からフリージャーナリストとして活動。著書「避難弱者」で2014年日本ジャーナリスト会議賞(JCJ賞)を受賞。



眞並 恭介(しんなみ・きょうすけ)

1951年大阪府生まれ。ノンフィクション作家。原発事故後、福島の被災地の家畜、犬や猫、野生動物の取材が続いている。『牛と土 福島、3.11その後。』（集英社）で第37回講談社ノンフィクション賞と第58回日本ジャーナリスト会議賞(JCJ賞)を受賞。著書に『すべての猫はセラピスト 猫はなぜ人を癒やせるのか』（講談社）など。



中川 恵一(なかがわ・けいいち)

1985年、東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室入局。スイスPaul Sherrer Instituteへ客員研究員として留学後、社会保険中央総合病院放射線科、東京大学医学部放射線医学教室助手、専任講師を経て、現在、東京大学医学部放射線医学教室准教授、放射線治療部門長。この間、2003年から2014年まで、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部長を兼任。患者/一般向けの啓蒙活動にも力を入れており、福島第一原発後は、飯舘村など福島支援も積極的に行っている。日経新聞で「がん社会を診る」を毎週連載中。



桜井 勝延(さくらい・かつのぶ)

1956年福島県南相馬市出身。農業。1978年、岩手大学農学部卒業。2003年3月～2005年12月、原町市議会議員(1期)、2006年1月～2010年1月、南相馬市議会議員(2期)、2010年1月～2014年1月、南相馬市長(1期)、2014年1月～2018年1月、南相馬市長(2期)。趣味はランニング、読書。

**B5判 192ページ**  
**定価 カラー**  
**2,000円+税**

申し込み先 福島民報社事業局出版部 **FAX 024(531)4157** TEL 024(531)4182

**注文書**

福島はあなた自身 災害と復興を見つめて 冊 申し込みます

氏名	住所
電話番号(連絡先)	

Amazonでも販売します。